

エコ活動ってどんなもんだ。
なにかうまい知恵はないかな。



いろいろな挑戦が
されているみたいだよ。



広がる 環境にやさしい知恵

●日本の技術で解消しよう！ 水問題

水不足になやむ地域がある一方で、日本は、水を処理する技術や安定した水を供給するシステムがとても進んでいます。その技術を活かして、水問題になやむ地域を減らすため多くの人が努力しています。



世界に誇る日本の水技術

海水を真水に変える膜の技術は
世界で約7割のシェアを占めています。



逆浸透膜 (RO 膜) 写真提供：東レ株式会社

飲めない水を飲める水に
変えているのじゃな。



●自動車を「買う」から「借りる」へ

電気自動車は、二酸化炭素を出さずに走行できるなど環境にやさしいエコカーです。

神奈川県では、2014 年度までに県内を 3,000 台の電気自動車が走ることを目標にしています。

また、神奈川県は、県が公用車として使っている電気自動車を使わないときに地域の人に貸しています。みんなでエコカーを使うので二酸化炭素の排出量をさらに減らすことができます。



電気自動車 写真提供：神奈川県



環境にやさしい乗りものを
上手に使うのじゃ。



●新しい路面電車で省エネ効果アップ

1 家に 1 台マイカーを持つことが当たり前となった今、かつて地域の人々の足として親しまれていた路面電車は、廃止される傾向にありました。近年は、車の渋滞や大気汚染などの問題から路面電車を復活させる動きがあります。

2006 年 4 月、富山市で「ライトレール」が導入されました。ライトレールは快適で省エネ性に優れた新しい路面電車です。自動車の利用を減らして、排気ガスやエネルギーの消費を少なくできる交通機関として注目されています。



ライトレール 写真提供：富山ライトレール株式会社

広がる環境にやさしい知恵

身近な製品から持続可能な社会を考えよう！

① 身の回りの容器にも環境にやさしい工夫あり

ペットボトルやお菓子の箱、ティッシュペーパーの箱など身の回りにはさまざまな容器があります。各メーカーは容器に使う資源の量を減らす努力をしています。

たとえば、持ちやすさ、丈夫さなどの機能は変えずに、容器の軽量化をはかったり、コンパクトでありながら内容量を増やすなどの工夫をしています。さらに容器に使う材料も植物を原料とした環境にやさしいものを使うなど、さまざまな挑戦が続けられています。

資源を大切にしながら、地球温暖化の防止にも貢献しています。



軽量化でつぶしやすい
520ml ペットボトル
写真提供：日本コカ・コーラ(株)

② 毎日使う照明こそ省エネ効果の大きいものを

1996年に日本で開発された白色LEDは、小型で省エネ、長寿命という優れた特徴を持っています。

近年は電気代が節約できる上に環境にもやさしいと注目を浴びて家庭でも利用されています。

毎日使う照明を白熱電球からLED電球に買い替えれば、二酸化炭素の排出量をおさえることができます。



E-CORE・LED電球 LEL-AW8N
写真提供：東芝ライテック(株)

③ 余りものも生まれ変われば地元の特産品に

岡山県倉敷市児島は、江戸時代から繊維の町として知られてきました。日本で初めてジーンズがつくられたのもこの町です。

ジーンズをつくる時に余ってしまう生地は、エコバッグに生まれ変わります。ごみとして捨てられていたはずの生地も地域の特産品として町を支えています。地元の特産品を大切にする地域の人の心が資源の有効活用に役立っています。



捨てられるデニムの余った生地を再生利用してつくったオリジナルエコバッグ
写真提供：株式会社 山陽マルナカ

日本中で広がる環境産業！

環境に優しいものなどをつかって売る活動を「環境産業」といいます。この環境産業は、日本で年々大きくなっています。環境産業が大きくなると、その分、日本は豊かになり、また、環境もよくなります。

わが国における環境産業の市場規模の推移



資料：環境省



- 温室効果ガスの削減
- 環境の保全

うまいもんだ。
新しいわざには価値がある。
おれも知恵をしぼらねえと。

